

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	○市町村との連携 ・運営推進会議に行政の参加を呼びかけ、現場で明らかになった課題や問題を、行政と連携してサービスの向上に繋がる取り組みをする。	・運営推進会議に行政に参加してもらい、現場での課題等を聞けるようにする。 ・問題点がある時は、行政指導を受ける。	・運営推進会議を行政も参加しやすい日に開催し、指導・助言を仰ぐ。 ・日常的に、問題点や不明な事がある時は、その都度指導を受けるようにする。	12 か月
2	10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 ・家族への個別アンケートなどを実施し、心の奥にある本音の声や思いを吸い上げ、ホームの取り組みや思いを家族に理解してもらい、ホームと家族の距離がさらに近くなれるような工夫をする	・ホーム独自で家族に向けての個別アンケートを年2回を目標に実施する。 ・アンケートの結果を検討し、ケアの内容や家族への対応・交流に生かす。	・アンケートの内容を検討し、家族の協力を得て2月に実施する。 ・アンケート結果を職員全員で検討し、改善に向けて見直しを図っていく。 ・おたより等を活用し家族にも結果を伝える。	3 か月
3	35	○災害対策 ・災害時の家族への連絡方法・避難場所等の事前連絡、職員の認識・初動体制・参集方法・居室内管理等を職員間で再度話し合い、災害に対する気づきの再確認をする。	・職員が「災害用伝言ダイヤル171」を活用できるようにする。 ・家族への周知を図る。(連絡方法・避難場所・「災害用伝言ダイヤル171」の活用方法等)	・毎月1日に「災害用伝言ダイヤル171」にかけ、全職員が使い方を知る。 ・1月にユニット毎の避難訓練を実施し、個別の避難方法を検討、職員の認識の向上を図る ・ホームたよりに掲載し、家族への周知を図る	3 か月
4	33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 ・ホームとしての明確な判断基準はあるが、口頭での説明に留まっている。今後の為にも、全職員の意思を量り、判断基準等のマニュアル化や家族との合意書等の文書の作成をする。	・全職員で重度化・終末期に向けての話し合いを行い、意見をまとめて、基準をマニュアル化し、家族との合意書等を作成する。	・全体会議で重度化・終末期に向けての対応の在り方を話し合い、基準を設ける。 ・判断基準に沿って説明し、入居時に家族の合意を得る。	3 か月
5	6	○身体拘束のしないケアの実践 ・玄関の施錠に関しては家族の同意書もとっているが、全家族が認識しているか、施錠によって家族の訪問が遠のいていないかなど再検討し、短時間でも解放できる取り組みをする。	・当ホームでは玄関の施錠は、安全と防犯のため、身体拘束とはとらえていない。	・ホームを在宅(一般家庭)と同様に考えると、どの家庭でも普段より玄関の施錠はしていると思う。来客があればその都度鍵をあけて迎え入れるのが普通だと考え、玄関の施錠の解放についてはしばらく様子を見ることとする。	0 か月

注1)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

注2)項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。